

脾臓後出血に対する血管内治療の安全性と有効性に関する

多施設後ろ向き観察研究について

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

脾臓の術後出血に対する止血術としてカテーテルを用いた血管内治療が広く普及しています。ただし、血管内治療の標準化は十分ではなく、施設間での相違が見られます。治療にはコイルといわれる金属や接着剤を用いて出血している血管を閉鎖したり、膜付きのステントを留置して出血部位の穴を塞いだりするなど様々な選択肢があります。これらの治療手技やデバイスの違いによる治療の安全性や予後への影響に関するデータはまだ十分ではありません。我々は多施設研究を行い、血管内治療の安全性、有効性の評価を行い、治療の標準化を目指します。

【対象】

研究の対象になる患者さんは当院 で 2010 年 1 月 1 日より 2021 年 1 月 31 日まで、脾臓術後出血に対して血管内治療を行われた患者様です。

【調査項目】

電子カルテに残っている検査データ、年齢、性別、病歴、治療時の画像データなどを収集します。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【研究期間】

承認日から 2025 年 12 月末（調査状況により調査期間を延長する可能性があります）

【研究機関・組織】

大阪市立大学、関西労災病院、京都第一赤十字病院、京都府立医科大学、高知医療センター、
堺市立総合医療センター、住友病院、奈良県立医科大学、八尾徳洲会総合病院

【研究代表者】

永富暁

住友病院 血管内治療(IVR)センター

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5-3-20

TEL 06-6443-1261

【研究事務局】

永富暁

住友病院 血管内治療(IVR)センター

〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 5-3-20

TEL 06-6443-1261

【当院の研究責任者】

三上恒治

関西労災病院 IVR 科

〒660-8511 兵庫県尼崎市稲葉荘 3-1-69

TEL: 06-6416-1221 (代表)

FAX: 06-6419-1870 (代表)